第4次「北九州市子ども読書プラン」に係る全事業の進捗状況 【A:大変順調、B:順調、C:やや遅れ、D:遅れ】

方針	主要施策	取組内容	事業計画(目標)	R3年度～R6年度 取組実績	進捗状況	次期プランに向けた意見 (本取組の継続・廃止、新規事業の有無など)	
V 読書活動の普及啓発の推進	①子どもの読書活動への理解促進	関係機関と連携し、「北九州市子ども読書の日」など様々な機会を活用し、保護者などに対し、子どもの読書活動の意義等について理解を促す。	・ワーク・ライフ・バランスの推進、企業向け出前セミナー講師、社労士アドバイザー等派遣、啓発セミナーの実施	「企業向け出前セミナー講師派遣」「WLB推進アドバイザー(社労士)派遣」「啓発セミナーの実施」等 R3:30件、R4:26件、R5:27件、R6:28件	B	R2年度のコロナを機に「企業向け出前セミナー講師派遣」「WLB推進アドバイザー(社労士)派遣」の申請件数は減ったものの、オンラインセミナー等できる限りの取組みを実施し、実績は概ね横ばいである。	類似する事業の整理など、全庁的な見直しを行う予定であるが、引き続きワーク・ライフ・バランスの推進を図っていきたい。
			・保育所での「子ども読書の日」の周知	各保育所での案内チラシの掲示ないし配布を通じて、家庭における読書活動の推進を行った。	B	各保育所での案内チラシの掲示ないし配布を通じて、家庭における読書活動の推進を行った。	一定の成果は上がっていると考えており、引き続き取り組んでいく。
			・PTAと連携した家読等の家庭における読書活動推進の啓発	PTA協議会等との連携はないが、夏の読書カードの配布、家読ポスターの掲示を通して家庭における読書活動の推進を行った。	B	北九州市子ども読書の日、夏の読書カードの配布、家読ポスターの掲示を通して家庭における読書活動の推進を行った。	昨今のPTA組織を取り巻く情勢は複雑であり、PTAと連携した全市的な取組みは困難な面がある。家読等の家庭における読書活動の推進については、各家庭へ働きかける取組み方法を検討する。
			・企業・市民センター・子育て関連施設での専門家によるセミナーの開催 ・「北九州市子ども読書の日」の制定 ・図書館における「子ども読書の日」「読書週間」の取組みの実施	・市独自の子ども読書の日には、各市立図書館がそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施。 ・北九州市子ども読書の日には、各市立図書館がそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施し、普段図書館に足を運ばない子どもや保護者の来館につながっている。	B	・北九州市子ども読書の日には、各市立図書館がそれぞれ趣向を凝らしたイベントを実施し、普段図書館に足を運ばない子どもや保護者の来館につながっている。	・普段図書館に足を運ばない子どもや保護者の来館を促すため、「北九州市子ども読書の日」のイベント実施は継続的に行う。
②SNS等を使った情報発信、双方向性をもったやり取りの実施	ティーンズ層の取り込みなどを行うため、SNS等を活用した情報発信やコミュニケーションツールなどの活用を検討し取り組む。	・SNS等を使った情報発信 ・子どもの読書活動に関する相談機能の充実 ・読み聞かせ等の動画配信	・レファレンス用図書資料の充実 ・ホームページに「調べものおてつだい」「レファレンス」「テーマ別資料リスト」を掲載	C	・児童向け総合百科事典「ポプラディア」の更新や、子どもの読書活動に役立つレファレンスについてホームページに詳しく掲載 ・子ども図書館の到着図書や電子図書館の案内等をホームページに掲載 ・子ども図書館独自のSNS等による情報発信は、制限があり困難なため、現在のところ市の公式SNSを利用してイベント告知等を行っている。	市立図書館全体で発信するSNSが整うまでは、市の公式SNSやホームページ等で情報発信を行う。また、イベントの告知や電子図書館の利用案内などは、引き続き学校等の協力を得て行っていく。	
		・子ども司書養成講座の実施 ・子ども読書会議の開催	・子ども司書養成講座 R3年度からR6年度で172名の児童生徒が参加し、子ども司書として認定 ・令和4年度より子ども読書会議を開催。(参加者R4年度20名、R5年度40名、R6年度60名)	B	・子ども司書養成講座は毎年、定員を上回る応募があり、抽選で選ばれた受講者は貴重な経験の機会を得て熱心に参加した。読書リーダーとして活躍できる子どもたちの育成につながっており、実際に学校において読書活動を広げている。 ・子ども司書養成講座の閉講式後や、ジュニアサポーター全体会議において子ども読書会議を開催し、学校での読書活動を盛り上げるイベント等について話し合った。	子ども司書養成講座、子ども読書会議ともに、読書好きな子どもたちにスポットライトが当たり、子ども同士が読書の楽しさを分かち合う取り組みとして有効であり、引き続き取り組んでいく。	
③読書好きな子どもが輝く、交流・発信する場の提供	子ども読書会議、ピブリオバトルの開催など、読書好きな子どもにスポットライトが当たり、その子どもたちが互いに交流し、周りにその輪を広げていける場の提供を行う。	・学校における「子ども司書」の活用	・子ども司書養成講座をR3年度からR6年度で172名の児童生徒が受講し、全ての受講者が2学期以降に各学校で、おすすめの本の紹介や読み聞かせなどの様々な活動に取り組んだ。	A	・子ども司書養成講座の全ての受講者が自分の学校で読書活動推進リーダーとして取り組み、各学校から活動報告書が提出されている。指導に当たる学級担任、図書館主任、学校図書館職員に講座の内容を周知するなど、情報共有が必要である。	・主体的に読書活動にかかわる子供を育成するため、各学校と連携しながら今後も引き続き取り組んでいく。	
		・読書好きの保護者を増やすための講演会、講座等の開催 ・読み聞かせボランティア養成講座など各種講座の開催等	・専門の講師を招き、毎年度読み聞かせボランティア講座(初級・中級各3回)、及び読書ボランティア講座(ストーリーテリング2回・ブックトーク3回)を開催。	B	読み聞かせ及び読書ボランティア養成講座は、毎回抽選で参加者を選定するほど人気の高い講座として定着している。	講座の修了者に対し、読み聞かせボランティアとしての活動の場をさらに広げられるよう、ボランティアバンクの整備や派遣先との連携を含め、事業を継続する。	
④読書好きな大人・家庭を増やす取組みの展開	保護者や周りの大人に読書好きになってもらえる取組みを検討、展開する。						